

# 4がわのくもの子の会だより

<H.25.4.5>

新年度のスタートです。  
平成3年に始まったくもの子の会も、今年度もまた迎えることができ、うれしく思います。

さて、新年度です。今まで来ていた方が、幼稚園・保育園入園となり、メンバーがまたかわることを思います。

いい出会いがあればいいなあと思いつつ、参加者をお待ちしています。うちの小さな森のせも園に入園して下さる方もいらして、今度は、お母さんではなく、森と園から歩いてくることになる子もいます。

今年度もくもの子の会に来て下さる方と、うちの園の子どもたちのいい交流の場になればと思います。よろしくお厚慮します。

## 「心の弱い子」が増えている??

今の日本は、ごく当たり前の子育てができていない気がします。親はみんな子どもがかわいもの。かわいければ、叱るべき時は叱る。そしてほめる時はほめる。そういった基本的なことができない親が多いと感じます。

不況が長引いて、家庭にもストレスがたまっていきます。夫が仕事のことでイライラして、妻に当たる。妻は子どもに当たる。そういう悪い連鎖の中にいると子どもはうつろい、自己肯定感を持つことができなくなります。

(後略)

(水谷修 水谷青年問題研究会)



(「心の弱い子が増えている」の理由)

① 自己中心的な親が増えている  
近年、母親が「母親である前に女」、父親が「父親である前に男」をするという自己中心的な親が増えています。子どもが生まれてから、ある程度の年齢になるまで「子どもを中心に家庭を回さなければいけない」ですが、母親は子育てより自分のお世のほに  
関心がある。父親は友達とのつきあいが大事で、休日も遊びに出かける。その結果、家庭がめんどくさくなるのです。



あなたは、子どもの前で夫婦げんかをしていませんか。それは幼児虐待と同じです。引きこもりや不登校等、心が病んでいる子どもは、小さい時に常に親の喧嘩を見ていたり、悪口の言い合いを聞いていた場合が多いものです。幼い子どもにとって、この世で一番愛しているのはお父さんとお母さんです。親は子どもが最も信頼を寄せ、人生で初めて人間関係を作る存在です。その二人が毎日のしり合うと、人が怖くて信じられなくなります。ちよとしたことで心を閉ざしてしまふ。いつもびくびくしているで、しめの対象にされたり、逆にキレやすくなることもあるのです。

(へこたれな子、心の弱い子になる育て方 刊)